



TITLE:

ひるでぶらんどノ經濟階段説ニ就
テ

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. ひるでぶらんどノ經濟階段説ニ就テ. 經濟論叢 1917, 5(5): 741-748

ISSUE DATE:

1917-11

URL:

<https://doi.org/10.14989/127285>

RIGHT:

雜 錄

ひるでぶらんじノ經濟階段 說ニ就テ

本庄榮治郎

余ハ前號ニ於テリテミノ經濟發達階段說ヲ論評シタルニ因
ミ、本號ニハひるでぶらんじ氏ノ說ヲ述ヘントス。リテミ
ノ說ガ從來多少ノ誤解ヲ以テ觀察批評セラレシト同シク、ひ
るでぶらんじノ說モ亦タダ所謂自然經濟、貨幣經濟、信用經濟
ノ名ノミニヨリテ連斷セラレ、ソノ用語ノ意義、學說ノ内容
ヲ見サルカ如キ紹介批評等ノ存スルコトハ余ノ遺憾トスル所
ナリ。

一、三階段說ノ大要。 Bruno Hildebrand ハ交

換ノ方面ヨリ經濟ノ發達ヲ觀察シテ自然經濟
(Naturalwirtschaft) 貨幣經濟 (Geldwirtschaft) 及
ヒ信用經濟 (Kreditwirtschaft) ノ三者ヲ區別シ
タリ。こーんノ說ニ從ヘハコノ三階段說ハばあ
ぎゆべー (Boisguillebert) ニ萌芽ヲ發シ (一七
〇七年)、ペレー (Isaac Pereire) ニヨリテ形
成セラレ (一八三二年)、ひるでぶらんじニヨリ

雜 錄 ひるでぶらんじノ經濟階段說ニ就テ

テ唱ヘラルルニ至リシモノナルガ、ひるでぶ
らんじハ先ヅン著 Die Nationalökonomie der
Gegenwart und Zukunft. 1848, S. 276-279 於テ
コノ三階段說ヲ述ベ、ツイゼンノ論文 Natural-
wirtschaft, Geldwirtschaft und Creditwirtschaft
(Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik,
2. Band, 1864, S. 1-24) ニ於テ之ヲ詳論シタリ。
ソノ說ニ曰ク『凡ソ交換ノ形式ハソノ始メニ於
テハ物ト物トヲ交換シタルモノナルガ、更ニ進
歩スレバ貴金屬ノ交換媒介物即チ貨幣ヲ使用ス
ルニ至リ、最後ニ將來同一物又ハ同價物ヲ返付
スヘシトノ約束即チ信用ニ對シテ貨物ヲ交換ス
ルニ至ルモノナリ。コノ三種ノ交換形式ニ基キ
テ自然經濟、貨幣經濟、信用經濟ノ三經濟發達
スルモノナルガ、各民族ハ何レモ先ツ第一ノ形
式ヲ以テソノ經濟進路ノ最初ノ階段トナスモノ
也。蓋交換ノ媒介トシテ貨幣ヲ使用スルハ勞働
又ハ勞働ノ生産物ニ餘剩アリテ之ヲ以テ金屬ヲ
獲得シ賣買シ得ルコトヲ前提トスルヲ以テ也。
貨幣經濟ハ民族カ自己ニ必要トスルヨリモ多ク

第五卷 (第五號 一二七) 七四一

1) Gustav Cohn, Grundlegung der Nationalökonomie, 1885, S. 453, 尙 Zeitschrift für gesammte Staatswissenschaft, Jahrg. 1869, S. 392 ff. 於ケル Cohn, ノ Boisguillebert ト題スル論文參照。

(一) 本號ニ於テハ、ひるでぶらんじ氏ノ經濟發達階段說ニ就テ、本庄榮治郎ノ論評ヲ載シ、

ノ貨物ヲ生産シ既ニ幸福ナル狀態ニ進ミタルト
キニ始メテ生スルモノニシテ、信用經濟ハ秩序
アル貨幣交通ガ十分ニ發達シタルニモ拘ラス、
尙不便ナル點ノ存スルコトヲ感得シ支拂手段ヲ
一層簡單ナラシメントノ要求ヲ見ルニ至リテ行
ハルモノ也。而シテコレ等三階段ハ漸次ニ發
達セルモノニシテ年代ヲ以テ之ヲ區分シ得ヘキ
モノニアラズ、一時代ノ將ニ終ラントスル際ニ
ハ既ニ他ノ時代ノ經濟ガ次第ニ行ハレ居ルモノ
ニシテ、例ヘハ中世ヲ以テ自然經濟ノ時代ト稱
スルモ都市ニ於テハ、既ニ早ク此時ニ貨幣經濟
ハ發達シ居タリシ也。サレハ以上述フル所ハ大
體ノ發達ノ順序ヲ云フニ過キサル也』ト。然リ
現在ニ於テモ信用經濟ハ都市ニオケル商工業者
間ニ發達スト雖、田舎ニテハ寧ロ貨幣經濟（現
金取引）多ク、或ハ又自然經濟（物々交換）ヲ行
ヘル所モナキニ非ルヘシ。タダ最も進歩セル重
要ナル形式ニ從テ論スルトキハ現代ハ信用經濟
ノ時代ナリトイフヲ得ヘキノミ。

形式ノ進歩ノミヲイヒ表ハサンカ爲メニ論セラ
レタルモノニアラスシテ、彼ハコレニヨリテ經
濟組織ノ變遷ヲ明カニセント欲シタル也。故ニ
コノ説ヲ以テ單ニ交換ノ形式ノミニ關スルカ故
ニ經濟全體ノ發達ヲ示スモノニ非ストノ批難ハ
中ラサルコト頗ル遠キモノトイハサル可ラス。
今ひるでぶらんどノ説ク所ニヨリ三種經濟ノ一
般經濟狀態トノ關係ヲ述フレハ次ノ如シ。

『中世自然經濟ノ時代ニ於テハ各人ハ土地ト
稱スル鞏固ナル紐帶ニヨリテ結ヒ付ケラレタル
モノニシテ、一方ニ土地所有者アリ、他方ニ土地
ニ對スル勞働者アリテ相互ニ密接ナル關係ヲ有
シ、生産交換ノ現象ハ土地ト勞力トノ關係ヨリ
脱スル能ハス、國家ニ對スル義務モ亦コノ關係
ニヨリテ左右セラレシモノニシテ、封建制度、租
稅ノ物納、農民ノ土着ノ如キ、或ハ交通未タ發
達セス資本ノ集積未タ大ナラス、一度從事シタ
ル産業及ソノ經營方法ヲ固執シ、人口ノ増加又
遲々トシテ一般生活并ニ經濟狀態ガ沈滯固定シ
各種ノ關係カ世々相傳ヘラレテ保守的色彩ノ大

ナリシカ如キハコノ自然經濟ノ特徵トモイフヘキモノナリ。

然ルニ貨幣ノ行ハルルニ至リテ國民ノ生活ハ著シキ發達ヲ遂ケ、自然經濟時代ニオケル堅固ナル紐帶ヲ解キ土地ハ従前ノ如キ意義ヲ失ヒ、ソノ分割ヲ容易ニシ且ソノ他ノ所有權ト同シク一人ノ手ヨリ他人ノ手ニ轉帳スルニ至リ、土地所有ガ自由トナリシト共ニ農民モ土地ヨリ解放セラレテ自由ナル勞動者トナリ、租税ノ物納ハ變シテ貨幣ヲ以テスルニ至リ、つんぶと、ざるどハ衰亡シテ產業ハ自由トナリ、工業商業ノ發達ヲ生シ、分業次第ニ興リ、資本ハ急激ニ増加シ、人口モ亦増殖スルニ至リ、各人ハ自由ニソノ欲スル所ニ從テソノ能力ヲ發揮シ得ルコトトナリ、從來ノ如キ主從の制限の關係ハ廢セラレ、保守沈滯ノ社會ハ變シテ進取競爭ノ世トナリ、コノ變遷ハ又思想界ニモ影響ヲ及ホシ社會ノ面目ヲ一新スルニ至レリ。

カクノ如ク貨幣ノ使用ハ經濟ノ發展ニ一時期ヲ劃スヘキ顯著ナル變化ヲ與ヘタルモノナル

雜錄 ひるでぶらんどノ經濟階段說ニ就テ

ガ、而モ經濟ノ發達ハコノ貨幣ノ使用ニモ煩勞ヲ感スルニ至リ、遂ニ之カ使用ノ時間ト努力トヲ省約シ、更ニ貨幣ソノモノヲモ節約シ、貨幣ノ實際ノ媒介ナクシテ而モ一層多クノ效果ヲ舉クヘキ信用制度ノ行ハルルニ及ンデ經濟界ノ活動ハ一層敏速トナリ多、大ノ發達ヲ遂クルニ至レリ。

之ヲ要スルニ自然經濟ハ人類ヲ外面の物質的紐帶ニヨリテ相互ニ結合シタルモ、コノ紐帶ハ貨幣經濟時代ニ至リテ解離セラレ、自由清新ナル經濟組織ヲ現出シ、新勢力ト新生活トノ發展ヲ見タルガ、信用經濟ニ入リテ再ヒ人類ハ精神的道義的ニ結合セラルルニ至リシモノ也』

二、ひるでぶらんど說ニ對スル批評。以上說ク所ニヨリひるでぶらんどノ說ノ大要ハ略々明カナラン。乃チコレヨリソノ說ノ當否ヲ檢センニ、先ツ第一ニ論スヘキハソノ立脚點コレ也。コトノ說ニ曰ク『交換(Exchange)ヲ以テ國民經濟發達ノ立脚點トナスコトハ誤リ也。蓋經濟生活最初ノ階段ハ實ニ交換ナキ時代ナルヲ以テ也。從

2) Cohn, a. a. O. S. 453 ff. 尙 Zeitschrift für der gesammte Staatswissenschaft, Jahrg. 1868. S. 597 ff. ニオケル Cohn ノ論文ヲモ参照スヘシ

來 Naturalwirtschaft ナル語ハ物々交換 (ein Umtatz der Güter in natura) ヲ指スニアラスシテ却テ一家内ニ於テ所要ノ貨物ヲ生産シ消費スルコトヲイフモノ也』ト。思フニ交換ヲ標準トシテ經濟ノ發達ヲ究メントス。宜シク先ツ交換ノ有無ヨリソノ論ヲ始メサル可ラス。幼稚ナル社會ニアリテハ各人ハ主トシテ自家ノタメニ生産シ消費ス、一家ノ生産スル所ト他家ノ生産スル所ト相互ニ交換セラルルハ一歩進ミタル時代ノ現象ナルコトハ一般ニ認メラルル所ナリ。ソノ自家ノタメニ生産消費スル所ノモノハ即チ所謂自足經濟 (或ハ自給經濟 Selbstgenügende Wirtschaft) ナリ。びゆつへるハ之ヲ指シテ封鎖的³⁾ 家内經濟 (geschlossene Hauswirtschaft) トイヘリ、自足經濟ハ即チ交換ナキ時代ノ經濟ナリ。然ラハ先ツ自足經濟ト交換經濟トヲ分チ、然ル後交換經濟時代ニツイテ區分ヲナスコト論理上正當ナルヘシ。ひるでぶらんどノ説ク所ハコノ交換經濟時代ノミニツイテ論セルニ過キサ⁴⁾ ル也。

第二ニ論スヘキハひるでぶらんどノ自然經濟

ノ意義コレ也。彼ハ之ヲ以テ物々交換ヲ現ハスモノトシ、こーん、くらいんべひたー等ハ之ヲ以テ自足經濟ヲ指スモノトス。然レトモ通常ノ用語ニ於テハ Naturalwirtschaft ハコノ兩者ヲ共ニ包含スルコトふいりつぽびつちノ説ケル所ノ如シ。即チ自然經濟ナル語ハ第一義ニ於テハ自足經濟ヲ指シ、第二義ニ於テハ物々交換ヲ意味ス、ひるでぶらんどノ用フル所ハ第二義ニ過キサ⁵⁾ ル也。故ニコノ點ヨリ考フルモ先ツ自足經濟ト交換經濟トヲ對立セシメ、而シテ後、物々交換ニ論及スルヲ適當トスヘキ也。論者或ハ貨幣ノ媒介ナキ物々交換ハソノ方法頗ル煩雜困難ナルカ故ニ事實上ニ於テハ十分ニ行ハルルコトナキヲ以テ自足經濟ト實際ニ於テ區別スルコトヲ得ス、故ニ物々交換ヲ看做シテ自足經濟ノ一部トナスモ差支ナシトイフモ、物々交換ノ行ハレタルコトハひるでぶらんど氏ノ列舉セル事實ニヨリテモコレヲ見ルヘク、カノ所謂沈黙ノ商業⁶⁾ ノ如キ又ソノ一例ニ外ナラサルノミナラズ、交換ナキ自足經濟ト之ヲ混同スルコトハ理論上ヨ

3) Kleinwächter. Lehrbuch der Nationalökonomie. 1909. S. 16. Philipponich, Grundriss, I, S. 7-8.

4) 福田博士、國民經濟原論總論 107頁

5) Jahrbücher, S. 5.

6) 小川博士、經濟講話 70頁

リイフモ不可ナリトイハサル可ラス。

第三ニ論スヘキハひるでぶらんど氏ノ貨幣經濟ノ意義コレ也。氏ハ前述ノ如ク Entweder setzt man Güter unmittelbar gegen Güter um, oder man bedient sich des Tauschmittels der edeln Metalle, des Geldes,.....ト述フルヲ以テソノ所謂貨幣ハ金屬貨幣ヲ指スコト明カ也。物々交換ニ於テハ一人ガ與ヘント欲スル所ノ貨物ハ必スシモ他人ガ得ント欲スル所ノモノト投合セサル不便アリコノ不便ヲ除カンカ爲メニ交換ノ媒介物ヲ定メントスルニ至ルハ必然ノ勢ニシテ、コノ交換ノ媒介トナルモノハ即チ貨幣ナリ。然レトモコノ貨幣ハ果シテ始メヨリ貴金屬ヲ以テ造フレタルヤ、或ハ他ノ貨物ヲ以テセラレタルヤハ大ニ考究スヘキ所ニシテ、ソノ初期ニ於テハ寧ろ家畜、獸皮、貝殻、穀物、布帛等ノ、當時ソノ社會ニ於テ他ノ貨物ヨリモ一般ニ好愛珍重セラレシモノガ貨幣トシテノ任務ヲ盡シ、茲ニ所謂物品貨幣 (Warengeld) ナルモノ發生スルニ至リシモノニシテ、一般貨物ト分離シテ貨幣トシテ專用セ

ラルヘキ鑄造貨幣殊ニ貴金屬貨幣ノ如キハ稍々進歩セル社會ニ於テ始メテ用ヒラレシモノナルコトハ之ヲ否認スルヲ得サル也。然ラハひるでぶらんど氏ハコノ物品貨幣ヲ全然度外視シタルヤトイフニ必スシモ然ラス。彼ハ物々交換ノ事例ヲ列舉スルニ當リテ、物品貨幣ト看做スヘキモノヲモ説ケルガ如シ。例ヘハすかんぢなびあ北方ノ民族ハ家畜ノ外ニ Wadmal ト稱スル一種ノ毛織物ヲ以テ一般支拂ノ手段トナシタリ、而シテ一牝牛又ハ百二十頭 (一ふつれハ約 $\frac{3}{4}$ めーさる) ノわどまるヲ以テ價值計算ノ單位トス。古けるまんニテハ武器ト共ニ牛馬ソノ他ノ家畜カ賣買ノ手段トナリ裁判上ノ贖罪罰金等ハ武器及ヒ家畜ヲ以テス。てきさすニテハ玉蜀黍、にゅうじーらんどニテハ烟草及火柴カ賣買交換ノ手段トナリ、あいすらんどニテハ二十年前マデ羊毛脂肪牛酪等ガ交換ノ場合ニ用キラレタルカ如キ事例是レ也。由是觀此、ひるでぶらんどハ一方ニ於テ自然經濟ヲ以テ物々交換トシナガラ、尙此等ノ物品貨幣ノ場合ヲモ包含セシメ、貨幣經濟ヲ以テ

7) Jahrbücher, S. 4.
8) Jahrbücher, S. 5-6.

單ニ金屬貨幣ノ場合ニ限リシモノノ如シ。然レトモカクノ如キハ正確ニアラズ、自然經濟ヲ物々交換トセハ、寧ロ貨幣經濟時代ヲ分チテ物品貨幣時代ト金屬貨幣時代トナスノ適當ナルニ如カサル也。蓋コノ兩貨幣ハ交換ノ媒介物タルニ於テハ同一ナリト雖、貨幣トシテノ職分ヲ充ス力ニ於テハ大ナル差異アリ、從テ一般經濟ノ發達ニ大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ也。

最後ニひるでぶらんギノ説ニツイテ最モ論議セラルルモノハ貨幣經濟ト信用經濟トノ對立コレ也。コーンノ批評ヲ見ルニ『ひるでぶらんギノ説ハ貨幣ノ最重要ナル職分タル價值ノ標準(Wertmass)トイフコトヲ觀過セルモノ也。價值ノ標準タル職分ハ交易力信用ニヨツテ行ハルルヤ否ニ關セス依然トシテ存在セリ故ニコノ場合ニハ現金經濟(Baarwirtschaft)ト信用經濟(Geldwirtschaft)トノ區別ハ存スルモコノ兩者ハ共ニ貨幣經濟(Geldwirtschaft)ノ内ニ包含セラルヘキモノ也』ト、同様ノ批難ハ又多數學者ノ唱フル所ニシテ信用經濟ヲ以テ自然經濟、貨幣經

濟ト對立セシムルノ不可ナルコトヲ主張ス。¹⁰⁾蓋貨幣經濟ハ物々交換經濟ヨリ發達シテ獨立ノ存在ヲ有スルモノナレトモ、信用經濟ハ決シテ貨幣經濟ヨリ獨立セルモノニ非ル也。信用經濟ハ即刻現金ヲ授受スルノ煩勞ヲ避ケ、他日ニオケル債務ノ完済ヲ信シテ小切手手形等ヲ授受シ、又ハ帳簿上ノ貸借決済ヲナスモノニシテ、此等ノ信用券又ハ帳尻額ニ對シ他日現金ヲ支拂フヘキモノ也。故ニ信用經濟ハ依然貨幣ヲ基礎トスルモノナレバ、之ヲ貨幣經濟ト對立セシムルハ不可ナリトイフニ在リ。コレ等ノ説ハ一應ノ理由アリ、今ソノ用語ヲ慎重ニシテ論スレハ、所謂信用經濟ナルモノハ、内田博士ガ『貨幣ノ流通盛ナル上ニ信用制度大ニ發達シテ之ニ依ツテ拂渡ガ實際頗ル便利ニ決済セラルルニ至レル階段』¹¹⁾ト稱セラレタル所ノモノニ該當スヘク、貨幣經濟ノ下ニオケル發達タルヤ明カ也。然レトモ信用制度ノ存セサル經濟社會ト、手形小切手等ノ利用甚ダ盛ンニ、銀行其他ノ信用機關ガ大ニ發達シ、一國ノ經濟活動ガ之ニ倚賴スルコト

9) a. a. O. S. 453 ff.

10) Philippovich, Gumdriss, I. S. 9. Kleinwächter, a. a. O. S. 17

11) 經濟史總論 33頁

頗ル大ナル社會トハ、到底之ヲ同一視スルコトヲ得ス。故ニ之ヲ單純ナル貨幣經濟ヨリ區別スルノ必要アルハ明カナリトイハサル可ラス。余ハ既ニ貨幣經濟ニ就テ物品貨幣時代ト金屬貨幣時代トヲ分テリ、今ヤ更ニ信用經濟時代ヲ加ヘテ貨幣經濟時代ノ第三期トナスハ蓋妥當ナルヘキ也。

(註) Cohn a. a. O. S. 453 ff. ニ於テハ「ひるでぶらんど」ノ説ヲ批評シタル要點ハ大凡之ヲ三者トナスコトヲ得ベシ、一ハ信用經濟ハ現金經濟ト共ニ貨幣經濟ノ内ニ入ルヘキモノニシテ信用經濟ハ貨幣經濟ト對立セシムルナ非トセシコト、二ハ經濟ノ進歩スルニ從ヒ信用經濟カ現金取引ヲ壓ストイフハ正當ニ非ストセルコト、三ハ經濟發達ノ最初ノ階段ハ交換ナキ時代ナリトイフコトコレ也。右ノ第一、第三ニ就テハ既ニ之ヲ述ヘタルヲ以テ、ココニハ第二ノ論點ニツキ一言スル所アルベシ、こゝンノ説¹²⁾ニ曰ク「信用取引ハ經濟ノ發達スルニ從ヒ、益擴張セラレ現金取引ヲ壓スルニ至ルトイフハ正シカラス、實ハ之レト反對ニ進歩シタル經濟ニ於テハ、信用ハ次第ニ普通ノ取引ヨリ離レテ別ノ機關カ信用ヲ與フルコトトナリ、取引者ハ現金ヲ以テ賣買スルコト多キニ至ルモノナリ。英米ソノ他ニオケル最近ノ形勢ハ此ノ如シ」ト。今コノ論ヲ推シ擴メテ考フルトキハ貨幣經濟ヨリ信用經濟ニ進ムトノ説ハ維持スヘカラサルカ如シ。然レトモコノ批評ハ誤リナリ。

雜錄 ひるでぶらんどノ經濟階段說ニ就テ

こゝンノ論ニヨレバ、假令普通ノ取引者間ニハ現金取引行ハルルニモセヨ、信用ヲ與フル別ノ機關、例ヘハ銀行業ノ如キモノガ發達スルモノナルカ故ニ、未タ俄ニ信用取引ノ進歩ヲ否認スルヲ得サル也。例ヘハ買主甲ガ先ヅ銀行ソノ他ノ機關ヲ利用シテ現金ヲ得、然ル後之ヲ賣主乙ニ交付スル場合ニ、銀行其他ノ信用機關ヲ度外視シ、甲乙間ノ現象ノミニ着目シテ立論スルハ決シテ適當ニ非ル也。殊ニコノ場合ニ甲ガ銀行ニ當座勘定ヲ有シ小切手ヲ授受シタリトセンカ、或ハ小切手ハ現金同様ノ作用ヲナスコトヲ認ムヘキカ如シト雖、ソノ性質ヨリイヘハ小切手ハ依然信用ノ一種ニ外ナラサルカ故ニ、之ヲ以テ信用取引衰ヘテ現金取引發達ストナスハ大ナル誤解ナリ。所謂英米ニオケル現金取引ノ最近ノ形勢ナルモノモ、ソノ實ハ右ノ如キ場合ヲ云ヘルニ非ル乎。若シ然リトセハ普通取引者間ニ於テモ他ノ機關ノ作用ニ就テモ何レモ信用取引ニ外ナラサル也要スルニこゝンノ三個ノ批評中、第一、第三ハ之ヲ認ムヘキモノナレトモ、第二ハ之ヲ採ルコトヲ得サル也。

以上之ヲ要スルニ、ひるでぶらんどノ三階段說ハ大體ニ於テ是認シ得ヘキモノナルガ、尙ソノ立論ヲ精細ナラシメンカタメニハ、多少ノ訂正ヲ加ヘ、用語ノ意義ヲ嚴密ニシ、各經濟對立ノ關係ヲ明カニスルノ必要アルコトヲ知ラサル可ラス。今上述セシ所ニヨリ與見ヲ表示シ、之ヲひるでぶらんどノ説ク所^(括弧内ニ示セルモノ)ト對照ス

第五卷 (第五號 一三三) 七四七

12) a. a. O. S. 453 ff. 尙 Zeitschrift f. gesam. Staatswissenschaft. Jahrg. 1868. S. 598 ff. 參照

レハ左ノ如シ。

